

先週の礼拝メッセージ(2023年5月28日ペンテコステ)

「ペンテコステ」 使徒言行録 2:1-13

2章1節に「五旬祭」と記されていますが、「旬」とは10日間という意味で、ペンテコステとは50日間ということです。イースターを1日目と数えて、50日目を指しています。元々はユダヤ人の大切な祭りとして旧約聖書にも記されています。その大切な祭りの時に、聖霊が降ったので、教会では聖霊の降臨と教会の誕生を記念してお祝いしています。

イエス様は日曜の朝に復活され、その後40日間、日曜ごとに弟子たちに現れました。私たちクリスチャンが日曜に礼拝するのはそのためです。そして、40日目にイエス様は、弟子たちの見ている前で天に帰られました。そこには500人ほどの人がいました。その中の約120名の人々が、エルサレムに集まり祈りの時を持っていました。その祈り会が10日間続いたのです。そしてペンテコステの日に、聖霊が炎の舌のように一人ひとりの上にとどまったのです。聖霊がこのような形で下るのは、歴史上初めてのことでした。ですから、神様はすべての人にわかるように、聖霊が炎のような舌として下り、また、大風の音を起こして人々に知らせられたのです。

その物音に大勢の人が集まってきました。そこで弟子たちは、聖霊を受けたのち、他の国の言葉で語り出しました。そしてその内容は「神の偉大な業」(11節)でした。つまり、彼らは聖霊によって他国の言葉で福音を語ったのです。集まった人々は自分たちの国の言葉で弟子たちが語っているのを聞いて驚き、戸惑ったとあります。ある人たちは、知らない言葉を突然語り出した弟子たちを、酒に酔っていると嘲る者もいました。

この出来事のすぐ後に、ペテロのメッセージによって1日に三千人もの人がイエス様を信じるのですが、その布石としてこの時、彼らは自分の国の言葉で福音を聞いていたのです。それはどんなに驚きであり、彼らは福音を真剣に聞き入っていたことでしょう。弟子たちが異言で語った福音こそ、神の偉大な業でした。

これらのことから、聖書で語っている「異言」は、訳のわからない言葉ではなく、神の秘義を語ることであることがわかります。そして異言は未信者のためなのです。(1コリント14章)

そして異言には解き明かす者が必要です。なぜなら、言葉としてその意味が相手に伝わらないものは、異言とは言わないからです。

さて、聖霊はこの時以来、イエス様を信じるすべての人の心に入ってくださいるようになりました。聖霊の働きには、大きく分けて二つのことがあります。第一は、クリスチャンをイエス様に似た者へと整える働きです。Ⅱコリント3:18には「私たちは皆・・・栄光から栄光へと、主と同じかたちに変えられていきます。これは主の霊の働きによるのです。」と、聖霊の働きをはっきりと記しています。聖霊は私たちを成長させてくださるお方です。聖霊との交わりによって神をさらに知ることができるのです。

もう一つは、「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そしてエルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで私の証人となる。」(使徒1:8)とあるように、私たちを強めて、福音の証人としてくださるのです。私たちには人を救うことなんてできません。でも、伝える時、そこに聖霊が働かれ、その人を救ってくださるのです。

一言に福音を伝えると言っても、性格や賜物はそれぞれ違います。聖霊の力は語る力だけにとどまらず、福音を伝える知恵を与えてくださる力でもあります。福音を伝えたい相手に、どのように伝えれば良いか、知恵を与えてくださいます。これらの聖霊の働きがあるからこそ、教会が始まって二千年経った今も、私たちはクリスチャンとして歩むことができ、世界中で救われる人が起こされているのです。聖霊は「助け主、慰め主」とも呼ばれていますが、それは、決して私たちが心地よくなるためではありません。私たちが成長することなしに、聖霊の業が現れているとは言えないのです。聖霊は神の業を現すために、私たちのうちにいてくださるのです。聖霊の働きに自分自身を委ねましょう。神様は必ず、私たちを通して主の御業を進めてくださるお方なのですから。

